

平成7年度大田市沖中層型浮魚礁効果調査（抄録）

田中伸和

平成6年度では、新設する浮魚礁の設置位置や配置についての検討資料を得るとともに、両水域における魚礁設置前の漁場利用状況や漁場特性などの予備調査を実施した。今年度は、浮魚礁4基を設置し、その周辺海域での漁場形成や生産効果など把握することを目的とした標本船調査を実施するとともに、浮魚礁設置水域と対照水域の魚群分布量の比較からその設置効果について検討した。

結果の詳細は、（社）マリノフォーラム21に報告しており、ここではその概要について報告する。

結果の概要

1. 施設の設置

平成7年6月30日に大田市沖人工礁漁場のA-1工区の西側に4基の浮魚礁を設置した。

2. 魚の蝸集状況

- ・水中テレビによる目視調査では、マアジの濃密群の蝸集が確認された以外はメダイとウマヅラハギのみみられただけで、量的にも質的にも多くの魚種は確認できなかった。
- ・確認できた蝸集魚の少ない要因として、①魚礁設置からの経過日数が短く、蝸集機能が十分発揮しなかった、②水中の視界が悪く十分な観察が出来なかった、などが考えられた。

3. 魚群量の比較による浮魚礁設置の効果調査

- ・魚探調査による魚礁区と対照区の魚群量を比較した結果、各調査回次とも魚礁区で大きな値を示した。
- ・浮魚礁設置以前は対照区でやや大きいか同じ程度であったことから、浮魚礁設置により漁場形成能力が高まったと推察され、両海域の魚群量の差が相対的な効果の大きさを示していると考えられる。

4. 対象海域における漁場利用状況

- ・標本船の漁場の利用状況は、まき網では浮魚礁設置後は設置海域付近の利用がやや多くなる傾向を示した。一本釣りでは設置以降の営漁が魚礁性の少ないアマダイ釣りとイカ釣り主体となり、設置海域付近の利用はなくなった。

平成8年度調査の方向

- (1) 標本船調査による漁場利用状況の把握、生産効果量の推定。
- (2) 試験船による魚群量調査
 - ①魚礁区と対照区の魚群量の比較による魚礁設置効果の推定
 - ②水層別の魚群量解析による浮魚礁の蝸集効果の解明と沈設型魚礁との相乗効果の検討
- (3) 蝸集魚の把握
- (4) 施設の点検と保守管理
- (5) 漁業者への浮魚礁漁場の管理意識の啓発。